

電気通信大学こども食堂 2019 実施報告

中原有麻¹⁾、鈴木美穂²⁾、小川翠帆³⁾、伊藤千夏⁴⁾、福田裕司⁵⁾、大河原一憲⁶⁾

- 1) 電気通信大学 II 類 計測制御プログラム アメリカンフットボール部 トレーナー 学部 3 年
- 2) 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 大河原研究室 修士 2 年
- 3) 電気通信大学 II 類 計測制御プログラム アメリカンフットボール部 副務 学部 3 年
- 4) 電気通信大学 II 類 セキュリティ情報学プログラム アメリカンフットボール部 栄養 学部 2 年
- 5) 電気通信大学 情報理工学部 総合情報学科 大河原研究室 学部 4 年
- 6) 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 准教授 アメリカンフットボール部顧問・監督



1.はじめに

「子ども食堂」は子どもが 1 人でも安心して通えて、低額、もしくは無料で食事をとれるコミュニティの場を指すものです。このように、子どもの食事難や孤食への対策として始まった子ども食堂ですが、現在では地域の拠点としての機能を持つなどその意味合いは多様化しています（参考：農林水産省：子ども食堂と連携した地域における食育の推進）。また、近年、全国に数多くの子ども食堂が立ち上がり、形態や目的もさまざまに運営されています。

「電気通信大学 こども食堂」は電気通信大学大河原研究室、アメリカンフットボール部、ボランティア団体 VR からなる電気通信大学こども食堂プロジェクトチームを中心に立ち上げました。また、本プロジェクトを成功させるため、こども食堂かくしうじ、調布市社会福祉協議会、株式会社スボルアップ、電気通信大学生協、フードバンク調布、電気通信大学佐藤証研究室といった多くの方々にサポートいただきました。

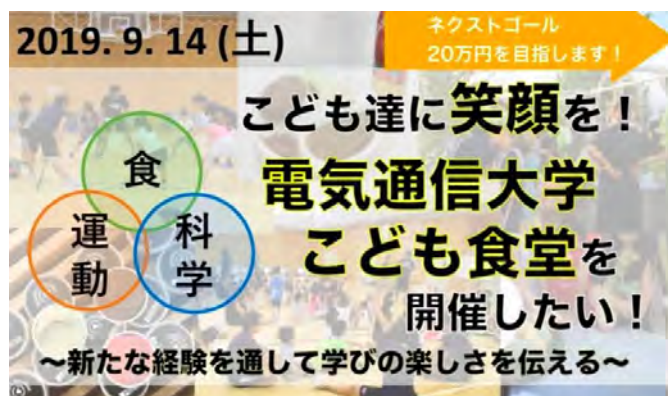


「電気通信大学 こども食堂」は今年で3回目の開催となりました。昨年は100名近くの子供達とその保護者の方々にご参加いただき、子供達と大学生と一緒に身体を動かし、同じご飯を食べ、共に楽しい時間を過ごすことができました。このこども食堂の運営に携わることを経て、活動する私たち大学生自身も充実感や達成感を得ることができました。今年も引き続き、地域の子供達のことを知り、実際にイベントに取り組むことで、私たち自身も成長していきたいと考え、開催することとなりました。昨年の経験から、今年の「電気通信大学 こども食堂」では、より本学の特色を生かした食、運動、科学の三点から子供達に新たな経験を通して学ぶ楽しさを伝えられるようなイベントにすることを目的としました。1日限りのイベントでは、子供たちの食事に関わる問題への直接的な解決策とはいえないかもしれませんが、イベントという形式だからこそできる事もあります。大学内の施設で食事や運動をしたり、大学の研究に直接触れたり、大学だけではない地域の非営利団体や企業とのコラボレーションがあったり、イベントだからこそその経験を子供たちと共有することに意味があると考えました。

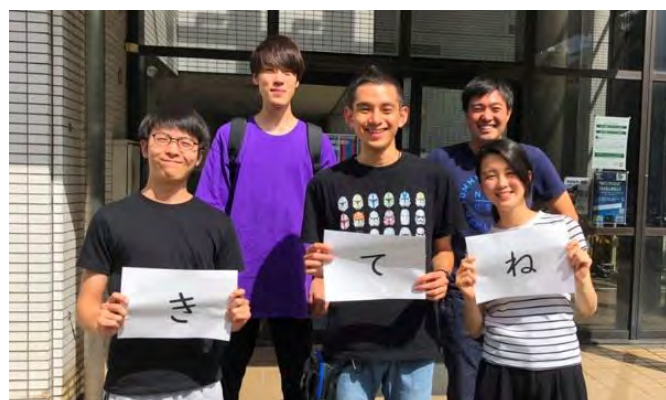
2.開催にあたって

クラウドファンディングによる運営資金の確保

本イベントは、参加したいと思った子供達の誰もが費用面であきらめることがないように無料で開催することにこだわっています。そのため、食事の提供や子供達のイベント保険の費用を用意する必要があります。昨年に引き続き今年もクラウドファンディングを通して資金集めに挑戦することとなりました。イベントを通じて地域の皆さんとの交流を保ちたいという考えから、地元密着型クラウドファンディング FAAVO 東京調布・府中を通じて、私達の活動に共感してくださる方々からの支援を募りました。



本プロジェクトのトップページ



大河原研メンバーによる呼びかけ用の写真



アメフト部による呼びかけ用の写真



アメフト部による呼びかけ用の動画

2度目のクラウドファンディング挑戦には昨年とは違った2つの課題がありました。1つ目は1ヶ月という短い期間で昨年よりも大きな額を集めなければいけない点です。2つ目は2度目のクラウドファンディングだからこそできる、こども食堂の輪を広げる為に何ができるかという点です。まずは多くの方々にこの活動、私たちの気持ちを知っていただき応援していただきたいという気持ちで直接またSNSを通して呼びかけを行いました。学校関係者をはじめ地域の飲食店に直接伺い宣伝ポスターやチラシを配布し呼びかけを行いました。実際にお伺いした際には快く受け入れてくださり、地域の皆様の暖かさを感じました。またSNSでの呼びかけでの情報拡散のご協力も私達にとって一つの大きな支援となりました。クラウドファンディングのサイトでの日々のレポート更新では、本プロジェクトにご協力頂いた方々からの応援メッセージや準備の様子の投稿を通して私たちの本プロジェクト開催への思いを伝えてきました。



支援者募集のポスター

クラウドファンディング開始当初はなかなか難しい状況でしたが、終了期限1週間を残して当初の目標である150,000円を達成しました。このまま終了することも可能でしたが、参加応募者が殺到している状況で、できるだけ多くの子供達に参加してもらいたいという強い思いから参加枠を拡大し目標額を増やし新たに挑戦することを決意しました。200,000円をネクストゴールとして設定し、最終的にはネクストゴールを超えた218,000円が集まり、参加者全員が無料でイベントへ参加するという目標を達成することができました。クラウドファンディングを通して得たものは直接的には資金ではありますが、それ以上に支援や応援していただいた一人一人の方との繋がりが私たちにとって大きく貴重な収穫であったと考えています。関係者も面識のない方も支援や応援していただいた一人一人の存在が私達にとってイベントを成功させるための大きな励みとなりました。ご支援くださった方々にはお礼状とささやかながら返礼品を送らせていただきましたが、イベントを通して参加者と主催者それぞれの

目的を達成することができたことが、ご支援、応援してくださった皆様への1番の恩返しであったと思います。

提供する食料品の確保

調布市フードドライブを通じてイベント当日の飲み物やお菓子などのご支援を受けました。調布市が主催で年に数回開催されているフードドライブは、一般市民や企業などが余っている食品を寄付し、それを地域の団体や福祉施設などが提供を受ける仕組みです。実際にフードドライブに参加し沢山の食品が寄付されている現実を知り食品ロスの多さを実感しました。こども食堂のイベントで食事を提供する私達にとっても他人事ではなく、地域での現実や問題をより身近に感じる機会となりました。また、調布で活動されている福祉団体の方々との交流を通してお互いの活動を知り、応援、支援し合えるような関係性を今後も築いていけたらと思います。



調布市フードドライブでの食品提供の様子

調布市では、食べられるのに家庭や企業で眠っている食品を集めて、必要としているご家庭や福祉施設・団体へ無償で提供する「フードバンク調布」が2017年に発足しました。フードバンク調布と電気通信大学大河原研究室では、バーコードを使用した在庫管理システムの共同開発をしたこともありご縁があります。そのフードバンク調布からはお菓子などを提供していただき、いただいた飲み物やお菓子を熱中症対策として配布し、こども食堂の安全や楽しさにつなげることができました。



フードバンク調布での食品提供の様子

参加者の募集

当初、本イベントへの定員は小学生を対象に親子合わせて100名で募集しました。本学の近隣の小学校である石原小学校、調布第一小学校、富士見台小学校、こども食堂かくしゅうじでチラシを配り、呼びかけを行いました。募集が始まると同時に応募者が殺到し、すぐに定員に達しました。そのため、急遽、クラウドファンディングでの支援金を拡大し、私たちが対応できる範囲で多くの方に参加していただけるよう努めました。

また、2019年6月から9月の間の月に1度、本プロジェクトにご協力いただいているこども食堂かくしゅうじへスタッフとしてお手伝いに参加させて頂き、本イベントに参加してもらうよう声がけをしました。子ども達の笑顔に私たち自身とても元気をもらいました。お手伝いを通してこども食堂を支える方々の存在や子どもの集う場だけではなく保護者にとつてのコミュニティの場であるなど、地域におけるこども食堂の色々な役割を知ることができました。事前にお手伝いに参加することで本プロジェクト開催が待ち遠しく感じました。



こども食堂かくしゅうじの手伝いに参加しました

3. 当日の様子

タイムスケジュール

- 15:00 受付開始
- 15:15 運動(ゲーム)
- 16:00 科学(アイス作り体験)
- 16:30 食育(水耕栽培の見学)
- 17:15 食事
- 18:15 終了

当日は約120名の調布市在住・在学の児童及びその保護者が集まり、大学生や関係者を合わせて200名近くが参加し電気通信大学こども食堂2019を開催することができました。プログラムは4部に分かれており、1部の運動ではアメフト部とのゲーム、2部の科学ではアイス作りの体験、3部の食育では屋上プランテーションで水耕栽培の見学、4部では参加メンバー全員での食事を行いました。

最初に受け付けです

はじめに入り口での受付です。スムーズに子ども達を体育館へ案内できるように2段階の受付システムで行いました。



入り口の受付

イベントが始まりました

開会式がはじまり、司会の掛け声とともに子ども達の大きな声が体育館全体に響き渡り2019年電気通信大学こども食堂がスタートしました。



開会式

続いてアメフト部によるアメフト紹介を行いました。普段アメフトを見る機会がなかなかない子ども達は釘付けでした。開会式で1番盛り上がる時間でした。

開会式後は6チームに分かれチームごとに運動、アイス作り、水耕栽培見学へと分かれ交代しながら企画を楽しみました。



選手によるアメフト紹介

電通大アメフト部との白熱したゲーム

体育館ではアメフト部によるゲームを行いました。運動の前にチームごとでの準備体操を行いました。



チームごとでの準備体操



ボール入れゲーム

1つ目のゲームはボール入れです。枠の中にボールを狙います。簡単そうで意外にむずかしい。チームごとに競い合い子ども達は一喜一憂しながらボール入れを楽しみました。

2つ目のゲームはボール集めです、お兄さんお姉さんとのじゃんけんに勝ったらボールをゲットできます。チーム対抗で1番早くボールをたくさん集めたチームが勝ちです。チームごとでの対決はより白熱しました。子ども達同士チームの仲間を応援する姿がたくさん見られチーム一丸となってゲームを楽しむことができました。



お兄さんとじゃんけん



ボールが集まってきました

水分補給休憩になると子ども達は水分補給スペースまでダッシュでかけていきました。体を動かして喉の乾いた子ども達はとても美味しそうに飲んでいました。



ドリンクを配ってくれたお兄さんも嬉しそうです

アイス作りを体験してもらいます

今回、科学と関連付けた企画を初めて設けました。大河原研究室の学生から原理を説明してもらいながら手作りアイスに挑戦しました。氷に塩をかけたものの中にアイスの元となるものを入れ、アイス状に固まるまで振ります。この作業が一番大変でしたが、みんなで協力しました。完成したアイスはとてもなめらかで好評でした。

水耕栽培を見学します

電気通信大学佐藤証研究室が行っている都市型プランテーションの見学です。一見して普通のビルなのに、屋上で突然現れる緑の風景に驚く子どもたち。実際にトマトを採って食べ、苗を植える体験をしました。土を使わずに野菜を育てている光景に子どもたちは興味津々でした。子ども達にとって新たな経験、学びを得ることができました。



プランテーションで採れた野菜



難しいところはお兄さんが担当します



佐藤先生の説明を聞いています

最後は参加メンバー全員での食事です！

沢山遊び、学んだ後はおまかせの食事タイムです。電気通信大学生協食堂にてみんなで食事を楽しみました。「お腹すいたー」「早く食べたい」など食事を楽しみにしている声が聞こえてきました。メニューは子どもも大人も大好きなハンバーグカレーでした。電気通信大学生協の協力のもと、200 食のハンバーグカレーが準備されました。お兄さんお姉さんと一緒にご飯を食べより一層ハンバーグカレーが美味しく感じたことでしょう。



さすが子どもたち、力強くたくさん振ってくれました



みんなで食べるカレーはおいしい



何かを教えているのかな

食事の後半には、株式会社スポルアップ様からご支援いただき、安全で健康によいジェラートを食べました。私たちは、提供していただいたジェラート製造元のお店"Quattro Panchine"様に事前取材に行きました。配布する際にはジェラートができるまでの工程作業を動画で見せました。子ども達だけでなく大人の方も興味を持って聞いてくださいました。提供いただいたジェラートの味はほうれん草でした。とても食べやすく美味しかったです。



ジェラートの取材後にジェラートをいただきました



ほうれん草味のジェラートってどんな味だろう

4.まとめ

子ども達からは「楽しかったからまた来たい!」という声も聞けてとても楽しんでくれた様子でした。また、保護者の方からのアンケートには「子どもたちにとって良い経験ができた」、「今後も参加したい」などのお声をたくさん頂きました。子ども達と大学生が過ごした時間はわずかでしたがとても濃い時間を過ごすことができました。今回のテーマ「新たな経験を通して学びの楽しさを伝える」のもと、子ども達に学ぶ楽しさを伝えると同時に大学生の私たち自身も新たな経験の連続の中で子ども達から学ぶことも多々あり、一緒に学ぶ楽しさを共有できたと感じます。今年で3回目の開催、2度目のクラウドファンディング挑戦となった電気通信大学こども食堂ですが、規模の拡大、新しい試み、支援の輪の拡大、子ども目線での安全対策など決して簡単なことばかりではありませんでした。しかし活動を通してたくさんの応援してくれる方々、協力してくれる方々の存在を知り、子ども達に笑顔になってほしいという強い気持ちを持ち続け活動することができました。そして当日はみなさんにもらった勇気をプロジェクト成功という形で恩返しできたと思います。



ジェラートのお店に取材に行きました

今後も地域の方々に応援していただけるよう、そして私たち自身も地域のことを知ることで皆様に自分たちの活動、存在を知っていただけるよう今後も成長していきますので引き続きご支援よろしく願いいたします。本プロジェクトにご協力いただいた全ての人に感謝し、以上を報告書とさせていただきます。

【開催日時・場所】

2019年9月14日(土)・電気通信大学

【主催】

電気通信大学アメリカンフットボール部

<http://www.crushers.club.uec.ac.jp/>

電気通信大学大河原研究室

<https://www.uec.ac.jp/research/information/opal-ring/0006120.html>

電気通信大学ボランティア団体 VR

<https://uecvr.amebaownd.com/>

【協力】

こども食堂かくしゅうじ

<http://www.syokudou.kakushoji.or.jp/about/>

調布市社会福祉協議会

<http://www.ccsww.or.jp/>

電気通信大学生協

<https://www.univcoop.jp/uec/index.html>

電気通信大学佐藤証研究室

<http://satoh.cs.uec.ac.jp/ja/>

フードバンク調布

<http://foodbank-chofu.org/>

株式会社スポルアップ

<https://spollup.jp/>

クラウドファンディング FAavo 東京調布・府中

<https://faavo.jp/tokyochofufuchu/project/3989#pj-single-nav>

フードドライブ(調布市民の皆様)

<https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1560302412378/index.html>

【プロジェクトリーダー】

鈴木美穂 電気通信大学院情報理工学研究科情報学専攻
大河原研究室 修士2年

福田裕司 電気通信大学情報理工学部総合情報学科
大河原研究室 学部4年

中原有麻 電気通信大学Ⅱ類計測制御プログラム
学部3年 アメリカンフットボール部 トレーナー

小川翠帆 電気通信大学Ⅱ類計測制御プログラム
学部3年 アメリカンフットボール部 副務

伊藤千夏 電気通信大学Ⅱ類セキュリティ情報学プログラム
学部2年 アメリカンフットボール部 栄養

田代剛大 電気通信大学院情報理工学研究科
機械知能システム学専攻 修士1年
ボランティア団体 VR

ほか 大学生・大学院生は、大河原研メンバー4名
アメリカンフットボール部メンバー46名で実施しました。

